

平成21年度 第2回 ようこそ考古学

覗いてみよう 縄文時代のゴ・ハ・ン

(財) かながわ考古学財団 宗像義輝



山形県押出遺跡出土 クッキー状炭化物

2009. 7. 3(金) 横浜市西区公会堂

■■■縄文時代の主食の一つと考えられるドングリ・トチの実の利用方法を考える■■■

はじめに

○縄文時代の主食（ゴハン）は？

- ・獣（シカ・イノシシ・ウサギ・ムササビなど）
- ・貝（アサリ・ハマグリ・シジミなど）
- ・魚（タイ・ボラ・サケ・マスなど）

以上は貝塚から出土するため想像が容易

- ・堅果類（ドングリ・トチの実など）

低湿地遺跡の調査で縄文時代に多く利用されていたと考えるきっかけが得られる。

※当時の食料を想定する上で重要な手がかりになるもの

- ・貝塚→貝殻のカルシウム分で保護される
- ・低湿地→空気が遮断されるため（今回はここから得られた情報に着目）

貝塚・低湿地遺跡以外から縄文人の主食を考える

○科学分析を使ったアプローチ

炭素・窒素同位体の分析の成果から、縄文人の主食は環境によって異なる様相が見られる。

植物食を利用していたことを科学的に裏付けられた

○縄文クッキーの発見

貝塚や低湿地遺跡で得られる情報より、さらに一步踏み込んだ手がかり

クッキー状炭化物：山形県押出遺跡で出土

パン状炭化物：長野県曾利遺跡で出土。

クッキー、パンと呼び分けているのはサイズや形態の違い。

クリ・クルミではなくドングリを使っているという説もあるが推測の域を出ない。

○水場遺構の発見（赤山陣屋遺跡の発掘 1984年）

トチの実の出土とアク抜き場の検出

→トチの実だけではなく規模の大きな遺構が検出された先駆け。

以降、全国でアク抜きに関連すると思われる遺構が各地で検出されている。

ドングリ・トチとは？

○ドングリとは

ドングリはクヌギ・カシ・ナラ・シイなどの木の実の総称。植生や利用方法も異なる。

大きく分けて4分類

・クヌギ 本州・四国・九州に分布。アクが強いのか日本で食用に用いられていない。虫がつきやすい。韓国では食用に用いられている

- ・ナラ（ミズナラ・コナラ） 日本全土に分布。東北地方で食用とされた。水溶性の

タンニンを含む。水につけてアク抜きする。

・カシ 福島以南の本州・四国・九州・沖縄に分布。タンニンを含む。水さらしによるアク抜き。

・シイ 耐寒性がやや弱い。主に関東から西に生息し、アクを含まない。

○トチとは

北海道南部・本州・四国の山地に分布。自然自生で植林は不可。湿気の多い谷や沢筋といった斜面に自生する。果実は直径4cmの球形で中に赤褐色で光沢のある種子が1つ入っている。デンプンを多く含む。

ドングリ・トチの加工方法（民俗事例）

○ドングリの利用方法

ここではナラの実について加工方法を見ていく

採集→乾燥→荒割り→（加熱）→水さらし→製粉→調理

加熱と水さらしの順序が逆のパターンや、加熱の前に灰汁と混ぜる例もある。

○トチの利用方法

利用方法は大きく2つ

・トチモチ：荒割りしたトチを灰汁につけアクをとる。

採集→水さらし→灰あわせ→蒸す→調理

・コザワシ：粉末状にしたトチを水に晒し、デンプンのみを取る。

採集→煮沸→つぶす→水さらし→調理

ドングリ・トチの利用を考古学的に裏付けできるか？

<遺跡から出土するもの>

・縄文土器：煮沸容器。水晒しの桶の役も

・石皿：殻むき、製粉

・叩き石：殻むき、荒割り

・磨石：製粉

・網布：濾すための布

<検出された遺構>

・水場遺構：貯水機能を持つ。虫殺し、

・木組み遺構：トチダナ？

まとめと問題点

・堅果類を加工することでデンプンを長期保存でき、食料がある程度安定供給できた。

→縄文文化の繁栄の一要因

・堅果類のまとまった出土は縄文時代の早い段階から見られるが、水場遺構は後期以降のことが多い。

水場遺構が作られるようになる前のアク抜き方法は？

<参考文献>

一般の方に（現在書店では入手が難しいと思われるので図書館での閲覧をお勧めします）

・食の文化ライブラリー 「日本の味のルーツを探るシリーズ」『トチの実をたべる』
1983

実際にトチの実のアク抜きを 30 年ぶりに実演してもらった記録映像。名古屋大学渡辺誠が聞き取りおよび監修。

（財）味の素 食の文化センターで閲覧できる

・佐々木高明 集英社版日本の歴史①『日本史誕生』 1991

民族学者の視点から考古学の成果を取り入れた視点で描かれた本。

照葉樹林と落葉樹林という大きな枠組みで文化論を論じている。写真や図が多いので比較的小さい。

・小山修三 『縄文時代 コンピュータ考古学による復元』 1984

民族例や民俗資料からの人口や食糧生産のシミュレートを行った。実際ドングリを集めて収穫量をシミュレートも行っている。本書は縄文時代の人口をシミュレートしたことでも有名。

・伊藤ふくお 『どングりの図鑑』 2001

いろいろな種類のドングリについて写真が豊富に掲載されている。

その他の参考文献

・渡辺誠 『縄文時代の植物食』 1975

・松山利夫 『木の実』 1982

・渡辺誠 「日韓におけるドングリ食と縄文土器の起源」『名古屋大学文学部研究論集 史学 33』 1987

・渡辺誠 「トチのコザワシ」『名古屋大学文学部研究論集 史学 35』 1989

・金箱文夫ほか『赤山』 1989

・長野県埋蔵文化財センター『栗林遺跡・七瀬遺跡』 1994

・南川雅男 「炭素・窒素同位体に基づく古代人の食生態の復元」『新しい研究法は考古学になにをもたらしたか』 1995

・栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 『寺野東遺跡 4』 1998

・佐々木由香「縄文時代の「水場遺構」に関する基礎的研究」『古代 第 108 号』 2000

・鹿沼市教育委員会 『明神前遺跡 発掘調査概要報告書』 2002

・下宅部遺跡調査団 『下宅部遺跡 1(旧石器・縄文時代編)』 2006

・山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 『押出遺跡』 2007

「三内丸山遺跡出土の骨」は下記のものを利用しています

独立行政法人 情報処理推進機構 教育用画像素材集

<http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/>

